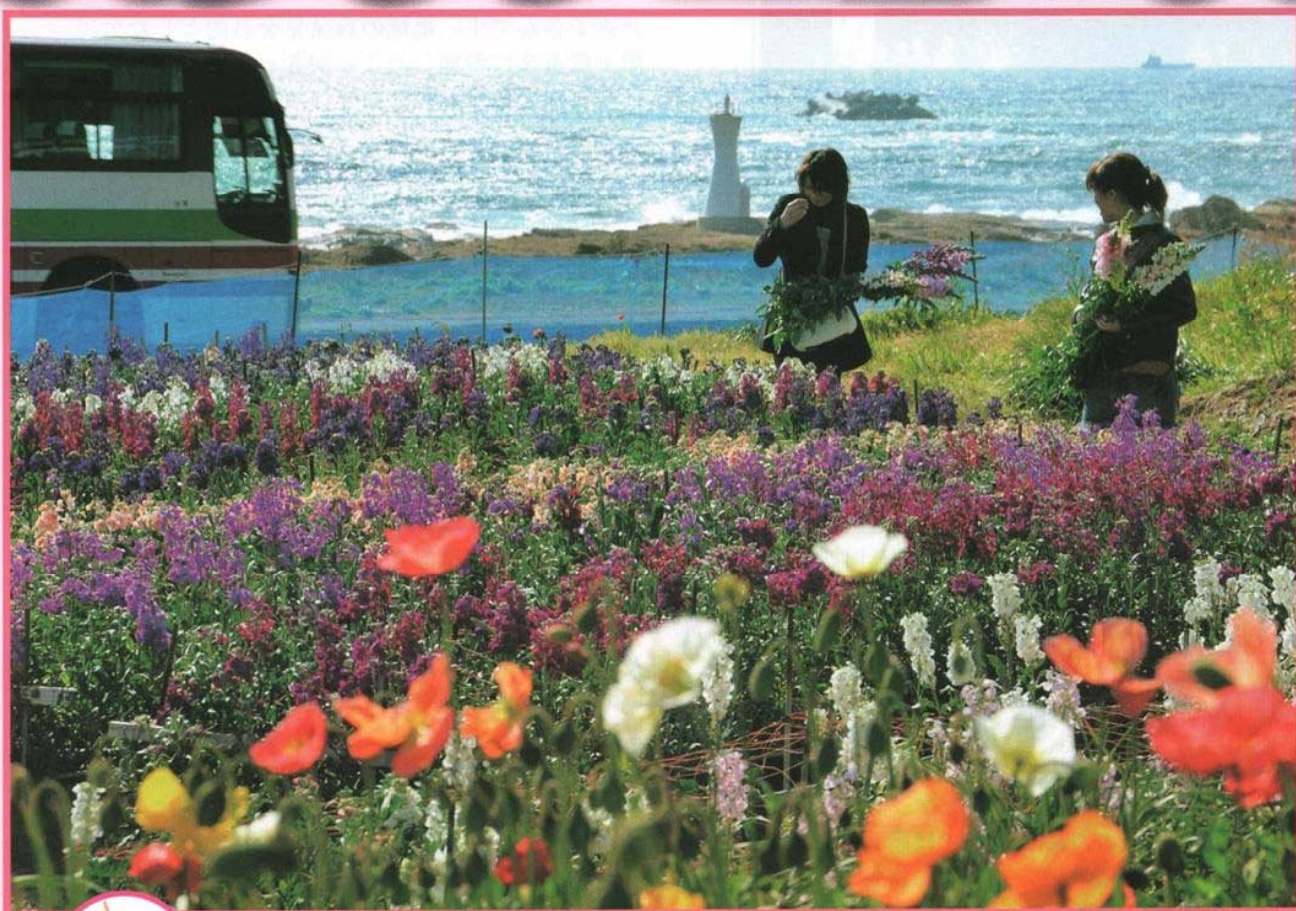


# ちばけん公民館 スタッフニュース



## わがまちじまん!! 南房総市「早春のお花畑」

南房総市は千葉県の最南端に位置し、北に房総丘陵を抱え、東、西、南の三方を海に囲まれた温暖な地域です。温暖な気候を生かした「花き栽培」が盛んで、その歴史は明治時代に遡り、百合の球根、切花栽培から始まり、南房総地域各所に広がっていきました。戦時中には花作りが禁止される試練にも遭いましたが、現在では観光花摘み園など消費者ニーズに沿った様々な形態のものへと広がっています。中でも、太平洋に面した無霜地帯に広がる千倉、白浜地区の露地花畑は、ストック、ポピー、キンセンカなど色鮮やかな花々が1月から3月下旬まで咲き続けます。フラワーラインを走れば、早春の日差しを受けて光る海と一面のお花畑のコントラストを車窓から楽しめます。

農家直営の花摘み園では、散策しながらお好みの花があれば有料で摘み取りができます。農家の方が花の選び方、摘み方を教えてくれますので花もちが良く、自宅に帰ってからも長く楽しむことができます。

近年では、新たな試みとして千倉地区のお花畑でライドアップが行われるようになりました。太陽の光の下とはまた違う幻想的な美しさです。南房総に一足早い春を満喫しにいらしてください。

写真：題「早春花景」（平成22年1月撮影）

第2回南房総市観光写真コンテスト最優秀作品

# 第62回千葉県公民館研究大会開催



11月18日、君津市民文化ホールを会場に、第62回千葉県公民館研究大会が開催されました。

この大会には、県内の公民館職員や公民館運営審議会委員、社会教育関係者など、約400人が参加しました。

午前の全体会では、「ひと・地域の“力”をひきだし、絆をつむぐ公民館づくりをめざして」をテーマに、公民館利用者や職員、公民館関係者等7人の方々によるリレートークが行われました。



初めは木更津市立富来田公民館で活動されている「合唱団いっせんぼく」の松本葉子さんです。28年前、当時の富来田公民館にはピアノがなく、要望しても予算不足のため公民館では購入することができないことから地域の人たちに寄付を募ったところ、1年後には購入することができたそうです。そのピアノを使ってサークル活動をしていくうちに、自分たちのサークルだけが使うのはもったいないと思うようになり、3年後には地域の人たちと「夏の夜のコンサート」を開催。出演者もスタッフも地域の方々の年齢・ジャンルは問わず色々な人に出演してもらっており、今年で25回目です。これを機に、地域の人たちから詩を募集してオリジナル曲を作ったり、音楽民話の活動も行うようになり、サークルと地域をつないでくれた公民館は誰もが自由に行き来し、語り合う場所であると話されました。

2人目は千葉大学教育学部教授の長澤成次さんです。小学生の1円募金で建設された浦安町中央公民館、婦人会による卵販売資金で建設された成田市公津公民館等、地域住民が建設に深くかか

わった事例を紹介し、「住民の側から建設する」という意識を持つことが大切だと話されました。

3人目は君津地方公民館運営審議会委員連絡協議会会長の近藤繁雄さんです。若い世代、小中高生が気軽に来館してくれれば、公民館活動がさらに活発になると話されました。

4人目は「松本ピアノ・オルガン保存会」の河井衣子さんです。地域の再発見を目的とした公民館主催事業に参加したことがきっかけで松本ピアノの存在を知り、保存会を作ったこと、ピアノの修復・資料整理のほかに小学校での展示、コンサートの開催、市行事への協力、松本ピアノのあゆみ巡回講座の開催等の活動をされていることを話されました。

5人目は袖ヶ浦市根形公民館職員の今津涼子さんです。公民館職員になって4年目。体験や知識を与えるだけでなく、喜び語り合えるような事業を行うため、「プロの意識と使命感は持っているか」、「コミュニケーションはとれているか」、「地域に入っているか」、「アンテナを高くしているか」、「地域に尽くせているか」を心がけ、公民館職員はどうあるべきかを自問しているとのことでした。

6人目は木更津市立富来田公民館職員の石井一彦さんです。公民館職員に求められているものとして、1番目に、財政状況が厳しい中、市長部局及び地域の人たちに公民館の理念・存在意味について、そして非効率的な事業でも行う必要があることを理解してもらうこと。2番目に、地域をつくっていく住民の主体的力を高めるために学びの質を高め、自治力を育てること。3番目に、人と人との関係、居場所、出番をつくり、地域のつながりを高める



ることがあると話されました。

最後は「木更津市ユースボランティア」の白石倅規さんです。白石さんは現在大学生。私立中学校に通っていたため、当時は地域に仲の良い友達がおらず、居場所がなかったそうです。そんな時、自転車地域を冒険する公民館主催事業に参加して、ある職員に出会いました。とても厳しく怖い職員でしたが、参加者のために一生懸命な姿にあこがれを感じ、公民館が休日の居場所になったのです。公民館は居心地良い場所であり、自分も公民館職員

になり、子どもたちに夢を与える仕事がしたいと話してくれました。

それぞれの立場から公民館に対する思いが語られ、とても有意義なりレトークでした。

午後からは「公民館運営審議会」、「公民館の管理運営」、「公民館職員」、「事業に生かす人権の視点」、「家庭教育支援・子育てのネットワークづくり」、「青少年事業と公民館」、「高齢者と公民館」、「地域づくりと公民館」の8つの分科会に分かれ、各分科会ともそれぞれの研究テーマに沿って活発な討議が行われました。



## 栄えある受賞おめでとうございます。

### 第63回（平成22年度） 優良公民館表彰（所管：文部科学省）

#### ○袖ヶ浦市平川公民館

家庭教育総合推進事業を立ち上げ、子どもの年齢にあわせて3ブロックにわけ、家庭、学校、地域の役割を認識した子どもの健全育成を目指した事業を開催している。米作りを通して、農業への関心を高めさせ、郷土の自然に触れながら、地域の中で子どもを育てる意識が見られる。住民ニーズや要望に応え、公民館運営に励んでいる。

【特色ある事業】家庭教育総合推進事業

#### ○市川市行徳公民館

公民館を中心に、住民の自主的、自発的活動が活発に行われ、学習活動への支援を行っている。また、公民館センターを設立し、館長会議を通して公民館同士の連携、地域住民の教養の向上、生活文化の振興に力を入れている。土日の講座を多く持ち、託児サービスの充実など住民の要望にあわせ、工夫した取り組みが見られる。

【特色ある事業】首都隣接エリアにおける住民の生涯学習活動への側面支援（きっかけづくりと活動サポート）

### 千葉県教育功労者（団体の部）

（所管：千葉県教育委員会）

#### ○成田市中央公民館

昭和54年開館。地域の特色を活かした多様な学習機会を提供し、乳幼児から高齢者、外国人住民等、多様な地域住民の要望にこたえた魅力ある講座・教室を開設し、サークル活動等自主的な学習への支援をするなど、地域に対応した運営に取り

組んでいる。また、市内13の公民館で活動するサークルなどが一堂に会して日ごろの活動の成果を発表する「公民館まつり」を開催し、生涯学習の拠点として一層の学習活動の向上や、地域住民の交流の場として貢献するなど、本県の社会教育の発展に寄与した功績は大である。

### 公民館優良職員表彰

（所管：社全国公民館連合会）

#### ○高瀬 義彰さん

（松戸市松戸青少年会館）

平成4年から18年間松戸青少年会館において主として青少年の社会教育活動に従事。その間青少年の自主的学習活動として、学級・講座において企画段階からの青少年参画に取り組む。また、青年の社会教育活動においては、青年の自発的活動発展の機会として青年フェスティバルを青年たちと協同企画。さらに、地域と子ども青少年の連携活動として、「子どもフェスティバル」「つどいのひろば」実施等、地域と青少年の結びつきに主眼をおいた社会活動が顕著である。また、県公連においては、専門部会である研修委員会の創設に関わり、以降平成11年から16年、平成19年から現在まで約10年間研修委員そして研修委員長として県下公民館職員の専門的能力向上に尽力した功績は大である。

### 永年勤続職員表彰(勤続15年以上)

（所管：社全国公民館連合会）

#### ○網代 明さん

（千葉市検見川公民館）

#### ○鈴木 和代さん

（木更津市西清川公民館）

# 第124回主事部会研修会

## 公民館事業とは何か～先輩職員の取り組みに学ぶ～

平成22年10月6日(休)、千葉市新宿公民館にて「第124回主事部会研修会」が開催されました。今回は特に気合を入れての1日研修ということで、実際に社会教育の最前線で仕事をされている方々を講師としてお招きし、先輩職員から貴重な経験談や心構えを語っていただきました。現在の住民ニーズが多様化する中で、改めて公民館事業の原点を見直す機会となりました。

### 住民とのかかわりの中で創る事業 ～職員のはたす役割～ 松戸市松戸青少年会館 高瀬 義彰 氏

青少年会館では利用団体やサークルと連携して講座を実施していますが、それにあたっては行政側だけでなくサークル



側からの要望も強くなっています。また、最近では企業の社会貢献活動も盛んになってきており、「青少年教室」では日本IBMなどの企業に講師を依頼したことがあります。企業側としても活動場所を求めている様子でした。

講座を計画する際には企画準備会を実施していますが、それには住民の方々にも参加していただき、より具体的に住民のニーズを把握できるよう努めています。子ども達が参加する講座では、やはり低学年の参加者は会議の場ではあまり自分から発言できませんが、高学年になるにつれて積極的に意見を言えるようになっていきます。その中で、成年達は江戸切子などの伝統工芸やゴスペルなどの講座を自分達で企画して取り組みました。

「地域教育セミナー」は松戸青少年会館で特に力を入れている講座で、地域の課題について学習することで地域の教育力を高めることを目的としています。この講座は参加者が地域や自分の問題・課題などを持ち寄って自由に話し合うところから始まります。ある程度意見が出てきた段階になる

とテーマを絞り、それを基にして職員は講師や資料を探し、講義ができるように整えますが、できる限り参加者同士での話し合いを中心に進められるように心掛けています。このような形式の講座はやたら時間が掛かり、正直なところ準備にも多大な労力を必要としますが、職員だけで企画して作り上げる講座よりずっと皆が仲良くなり、より深い関係が築けるようになります。この講座に参加した方々で、その後、民生委員や地域の団体に活動されるなど生きがいを見つけれられた方も多くいらっしゃいます。

### 私が堀江公民館で取り組んできたこと ～平和・人権の学習を中心に～ 浦安市日の出公民館 高梨 晶子 氏

私が昨年度まで勤務していた堀江公民館では、長年「平和」学習に取り組んできており、私が着任したときにこの事業を



引き継ぎました。この平和学習を起点にして、子育て世代の転入者が多い地域特性を背景に、人権(特に子どもの人権)や系統的な子育て支援関係の事業へと課題が広がっていきました。

事業における住民との関わりは、「平和学習」での企画運営委員会(平成15年度まではこの方式。紆余曲折を経て、現在は職員による企画)やサークル・地域団体との協力で進める子育て支援関係事業、その参加者が育って事業の協力者となるなどがあります。会議などで市民と話し合いを重ねる中で様々な課題や宿題をいただいたり、ともに事業を進めていく中で新たな課題の発見があったりと、このような関わりは講座を実施していくための基盤であると実感しました。

私は、幸運にも公民館に16年も勤められていますが、市民の心(気持ちや成長)に寄り添って講座を作り上げていくこと、また、共に協力しあう

市民にも、市民のために講座を作りあげていくのだという意識を持ってもらうことが公民館職員にとって重要な仕事なのではないかと考えるようになりました。そのために、職員には市民の要望や課題をすくい上げる力が必要であり、また、各講座の目的やねらいをしっかりと固め、公民館はカルチャーセンターとは違う役割を担っているのだと市民に説明できるようにしておかなければなりません。

### 公民館での学び ～地域での学びをどうつづけていくか～ 木更津市岩根西公民館 佐々木 英之 氏

住民との信頼関係を築くことが公民館職員として最も大切です。ほとんどの館で公民館だよりを発行していますが、配布するために担当する地区を自分の足で歩いてみると、その地域のことがよくわかります。ある公民館での経験ですが、自治会がない地区があったので最初はあえて職員が歩いて配布作業を半年ほど続けたところ、その後サークルの方々が協力してくれるようになりました。そして、これがきっかけで、公民館だよりを配布してくれた方々が中心になってその地区で自治会づくりが取り組まれたことがありました。ささいなことでも何かのきっかけになることがあるので、ぜひ行動を起こしてみたいです。

講座の企画については、現在は基本的に住民と一緒に作り上げる形でやっています。平成19～22年度に実施した「郷土史講座」では、私が異動してきた平成19年度は前任職員の企画通りに実施しましたが、従来の承り型学習ではなく参加者自らが主体的に学ぶことが大切だと考え、平成20年度からは講座参加者による準備会によって講座の計画を立てるようにしました。自分に身近なものを学ぶことで、次第に横の繋がりが広がることもあります。そして、それによって地域の学習にふくらみが出てきます。さらに地域の課題をみんなで考えられるようになったとき、「自分たちの地域を自分たちで考えていくんだ!」という明確なイメージができるのだと思います。公民館の講座を通して地域を再発見し、地域を考えるきっかけになると良いです。公民館の役割は、最終的にまちづくりにあるのであって、地域に根差しておこなわれ



なければなりません。都市部では「地域性」がないところも多いですが、公民館を単に来てくれる人だけのたまり場にするのではなく、地域づくりの拠点になるような活動を目指すべきだと思います。

また、公民館に専門職員は必要なのかとよく聞かれますが、教育機関としての本来の機能を発揮するための条件整備として専門職員が必要です。ですが、地域にある公民館にいくら専任の職員が配置されても、継続した事業の展開ができる環境でなければ、まともな事業はできません。その意味で、「地域性」と「継続性」が地域に根ざした事業を展開するうえでの重要な要素になります。しかし、最も大事なものは職員のやる気です。

#### 参加者質問

Q.予算がない場合はどうすれば良いか。

A.企業、地域の専門家、サークルや子ども会などの団体、市役所の各部署などに協力を依頼するのも良いです。向こうも活動場所を求めています。しかしその前に、特に近年は財政部門から予算削減の話があると思いますが、それには安易に応じることなく、粘り強く折衝を重ねる必要があります。その際にも過去の講座の企画書や評価書などの存在が大事になります。(高瀬氏)

Q.どのように講座を企画すれば良いか。

A.講座は一人の職員ではなく全員で作上げるものなので、職場の全員で相談するのが良い。そのためにも、日頃から何でも相談しやすい職場の雰囲気を作っておくことが大事です。(高梨氏)

Q.人を集めるにはどうすれば良いか。

A.とにかく頻繁に住民と接して、ニーズや課題の吸い上げを図ることが大事です。しかし、だからと言って、人が集まらない事業だからやらないというのは一番いけません。特に最近はそのような事業が敬遠されて、ますます公民館らしい事業が減っていく傾向があります。むしろ、「たとえ人が集まらなくても必要な事業はやる!」ということも必要ではないでしょうか。(佐々木氏)



# まちより むらより、

## 「エネルギーにのびやかに！」神崎ヤングフェスティバル

神崎ふれあいプラザ文化ホール ☎0478-72-1601



「神崎ふれあいプラザのステージを使って、青少年を集めて何か自己アピールできる事業を始めよう！」がきっかけとなり、若者の文化の祭典「神崎ヤングフェスティバル」を平成14年度から開催し、今年度で9回目になります。

「町内外の青少年を対象に自己表現の場を提供し、自己研鑽を促し交流・親睦を深めることにより青少年の健全育成に寄与する。」ことを目的としたこのイベントは、町内小・中学校、近隣高校へチラシを配布して一般応募の形で行っています。とにかく内容を限定しないで何でもオッケーという形で受け付けているので、ダンスやバンド、ピアノ演奏、コントや意見発表など、幼児から高校生まで多彩な発表者が集まり、司会者の軽快なトークと相まって会場が一体となり大変盛り上がるフェスティバルとなっています。

子供たちはそれぞれに秘めたパワーを持っており、日頃から色々な趣味・特技を持って練習もしています。ただ、大勢の前で発表する場は決して多くはなく、開催は有意義なものだと感じています。

今年度は、平成23年2月26日(土)に開催しますので、皆さまのお越しをお待ちしております。この事業の試みを通じて若者のパワーと確かな手ごたえが感じられ、今後の青少年健全育成に繋げるためにも継続して実施したいと考えています。

## 「国のおおしごとを見てみよう！」子ども霞ヶ関見学ツアー

睦沢町中央公民館 ☎0475-44-0211



文部科学省主催による「子ども見学デー」に合わせて、国会議事堂や農林水産省などを見学する「子ども霞ヶ関見学ツアー」を開催しました。小学4～6年生を対象に参加者を募集し、国のお仕事を見て回ろうというツアーです。

国会議事堂では、議員議席やギャベル（木槌）の複製などが体験できるコーナーや議事堂の模型など多くの展示品が分かりやすく紹介されており、子ども達も珍しそうに鑑賞していました。その後、参議院議場や御休所などを見学しました。国会議事堂の

前で記念撮影をしましたが、中央の棟が工事中なのがちょっと残念でした。

次に、農林水産省や総務省消防庁、国土交通省を見学しました。各省庁では様々な体験型イベントが用意されていて遊びながら学ぶことができたようで、集合時間ぎりぎりまで集中して楽しんでいました。職場見学のほか、子ども達の興味に合わせて霞ヶ関を自由に歩くことができるよう「子ども見学パスポート」を配布して下さり、スタンプラリーにも参加して夢中になってスタンプを集めていました。また、各省庁ではパンフレットやシール、参加記念品などをたくさん用意して下さり、子ども達はお土産がたくさんでき、両手に抱えて喜んでいました。

霞ヶ関見学ツアーでは、普段見ることのできない各省庁で、用意されている様々な展示や体験など楽しいイベントを通して、子ども達に国の仕事の取り組みに触れる良い機会となったのではと思います。これからも多くの子どもたちに学習の幅が広がるような機会を提供できるよう取り組んでいきたいと思っています。

# 持ちより公民館だより

## 「宇宙飛行士への夢を育む！」月・星～宇宙のふしぎ～

千葉市土気公民館 ☎043-294-0049



「空のどこからが宇宙ですか？」「どうしたら宇宙飛行士になれますか？」「地球みたいに人間が住める星はありますか？」「虫菌だと宇宙ステーションに行けないのはなぜですか？」と次々に出てくる子ども達の疑問をどう受け止めるのか。日本人宇宙飛行士が大活躍する昨今、宇宙の専門家に直接聴いてみようという講座を昨年度から実施しています。

今年度は、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の宇宙科学研究所から講師を招き、「月・星～宇宙のふしぎ～」と題して興味深いお話を聴くことができました。

た。また、新たな試みとして近隣の小学校とタイアップし、体育館を会場に出前講座の形で実施したところ、参加した4年生と5年生の全員がパワーポイントの画面にくぎ付けになりました。

「子どもの頃は乗り物酔いをするので宇宙飛行士にはなれないと諦めていたけれど、想像もつかないほど遠い星のことや、広すぎて数字では表現しきれない宇宙のことに興味を持つようになって天文学者になろうと決めた」という講師の先生の情熱が子ども達に伝わったのでしょうか。「星に年齢や寿命なんてあるんですか？」「宇宙人はいますか？」など、ハテナはどんどん膨らむばかりで、講師の先生からユーモアを交えた大変分かりやすい回答をいただき、とても満足した様子でした。この子ども達の中から将来の宇宙飛行士や天文学者が生まれるかもしれません。

普段の学校の授業では体験できない分野のお話を聴く時間や未知の世界の人に出会う機会を提供することによって、今後も子ども達に科学の面白さを知ってもらえる事業を展開していきたいと思っています。

## 「親子一緒に何でも体験！！」のびのび親子学級

我孫子市公民館 ☎04-7182-0511



「のびのび親子学級に応募したのは私自身の交流の場を作るためでもありましたが、他の親子の成長を見て子育ての参考にしたかったからです。最初は大勢のお友達の中にいることに抵抗があったのか、抱っこをしていることが多かったのですが、今では行くことが楽しくてたまりません。フラフープ、マット、とび箱など、家では遊べないことを体験できて、とても良かったと思いました。」こちらは、のびのび親子学級に参加されたお母さんの感想です。

のびのび親子学級は、2、3歳児をもつお母さんのための講座です。内容は、リトミック、工作、読み聞かせ、運動会、クッキング、体操などで、毎回講師を招き、年に11回親子一緒に様々な体験をしてい

ます。お父さんに参加していただくプログラムも入れ、親子で遊ぶ楽しさを味わっていただいています。「家でも挑戦してみます。またぜひ参加したいです。」という嬉しい感想もあります。毎年4月に4コースで95組の募集をしていますが、とても希望者が多いため抽選となっている現状です。

ほぼ丸1年を通しての活動ですので、お子さんの成長には目を見張るものがあります。回を重ねるごとにお友達もでき、ルールを守って行動できるようになります。運動会では、「順番を守ることができました。」「力を合わせるということが少し分かったようです。」などと言っていただきました。

お母さん方も最初は緊張されていますが、お友達も増えて活発に情報交換をするようになります。お子さんが笑顔で活動するようになると、お母さんもまた表情が生き生きとします。お子さんの成長には差があるので、よそのお子さんとは比べないでほしいと言っています。

最初の感想にあるように、お母さん同士の交流を深め、互いに支えあえる仲間づくりを目指しています。この講座で出会い、お子さんが大きくなっても交流が続いている人達もいます。自分子どもだけでなく地域の子どもを育てていく「子育ての輪」を広げてほしい。そんな願いをこめて活動しています。

# 公民館スタッフのつばやきコーナー

館  
長

## 高まる公民館職員の専門性

山武市成東中央公民館 館長 小川 義光 さん



平成の大合併により、平成18年3月27日に、蓮沼村、松尾町、山武町、成東町が合併して、総面積146.38平方キロメートル、人口約59,000人の山武市が誕生いたしました。海岸地帯、平野及び丘陵地帯がバランスよく配置されています。

合併と同時に新しい行政の枠組みがつくられ、今年で5年目に入っています。私は、4月に成東中央公民館に配属となりました新米の館長です。現場の三要素は、職員、施設、予算だと思いますが、当市においても、職員の縮減、施設の老朽化、緊縮予算など厳しい状況ですが、これからはもっと厳しくなることが予想されます。

公民館には、「山武市芸術文化協会」の事務局が置かれ、約70団体が加入し、各ジャンルで部会が組織されています。この部会が中心となり、展示会や発表会を随時行っています。公民館クラブとこの芸文協団体が日ごろ公民館を使用して

います。利用者は高齢の方が多いようです。主催事業については、多くの方に参加してもらえるように、主に趣味的講座を行っています。最近は市長部局でも、市民を対象にいろいろな講座が開催されるようになってきましたので、他部局との連携についても進めていかなければならないと思っています。

変革の中にある行政、めまぐるしく変化する社会、こうした環境の中にあって、公民館職員は、仕事を企画・立案・実施し、結果を評価分析し、次の仕事に生かしていかなければなりません。そういう意味においては厳しい職場ではありますが、市民が安心して集い、交流し、明日の活力を得られるような公民館をめざして、職員一同仕事に励んでいきたいと思っています。

## 私になりたい公民館職員

職  
員

袖ヶ浦市平川公民館 高橋 勝也 さん



袖ヶ浦市平川公民館主事の高橋勝也と申します。私は袖ヶ浦市に採用されて4年、平川公民館に配属となって2年目となります。平川公民館は、私を含む職員3名と非常勤の館長を合わせた4名で公民館の運営にあたっています。まだまだ公民館職員としては未熟で、講座等を通じて自分自身が勉強させていただいているといった様子です。

私は公民館に配属されるまで、公民館職員とはどのような仕事をしているのかまったく理解しておりませんでした。私の中の公民館のイメージは、窓口に行くと管理の方がいて、施設の貸し出しや、年に1度お祭りをやっていて、率直に言っただけのんびりしたところ、というようなものでした。しかし、いざ公民館の職員となってみると、施設の管理

もあれば利用者の方の補助、講座の企画・実行等、業務の内容は多岐に渡っており、年に1度のお祭りは、実は大変な労力のもと実施されているということをもっと体験しました。現在では、私の持っていた公民館のイメージは大きく変わり、講座や各種行事を通じて学習を行う場なのだ、といったものになっています。

最初にしたとおり、私はまだまだ公民館職員としては未熟で、将来に向けて公民館がどうあるべきかといった大きな視点に立って物事を捉えることはできません。また、学習効果の高い講座を企画・実行もできていないように思います。しかし、講座や窓口などで接した方、平たく言ってしまえば、せいぜい自分の手の届く範囲の方に公民館に来てよかったと思っていただけるような職員になりたいと思っています。

### あとがき

前任者の異動のため、4月から広報委員となりました。分からない事だらけで戸惑いもありましたが、他の広報委員の方たちのおかげで楽しんでお仕事をさせていただいています。

残念ながらあと1号を発行したら任期が終了となりますが、いい経験、いい勉強になりました。私を毎回快く送り出してくれる浦安市中央公民館の皆さんにも感謝です。

今年も残すところ、あと少しです。公民館職員の皆さん方も肝臓に気をつけて楽しい年越し年明けをお過ごしください。(長島)

### ちばけん公民館スタッフニュース

編集：千葉県公民館連絡協議会 広報委員

委員長：野田 政実(千葉市草野公民館)

編集者：岩田 和久(富津市中央公民館)

発行：千葉県公民館連絡協議会

印刷：株式会社 豊文堂